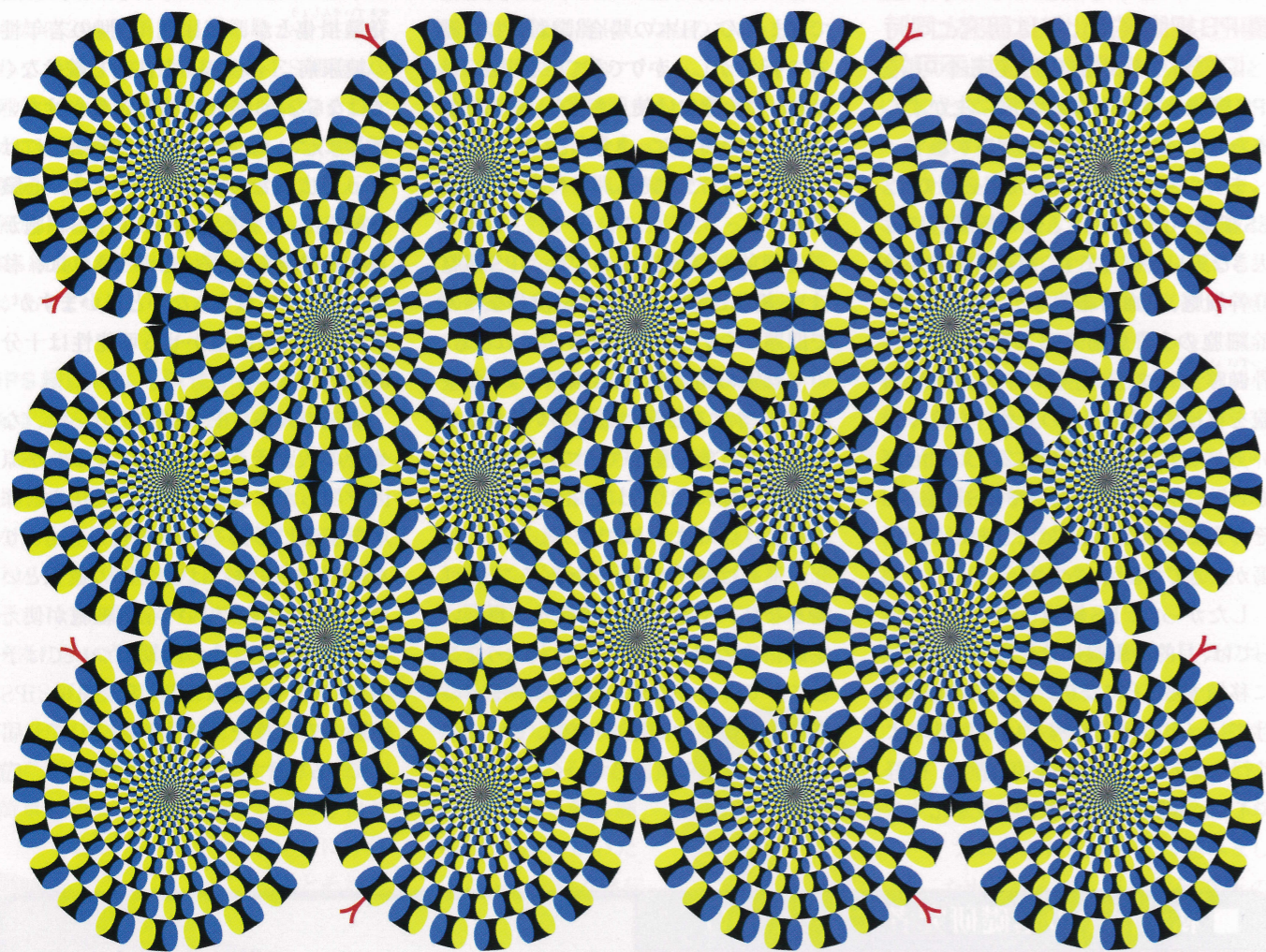


## 錯視の世界 イリュージョン・ミュージアム

錯視とは、視覚性の錯覚のことです。錯視の多くは脳で起こるのですが、目の錯覚と言ったほうがわかりやすいかもしれません。イリュージョンとは日本語では奇術(手品)のことですが、奇術で用いられているものは注意のメカニズムなどの高次の認知機能であるのに対して、錯視は相対的に低次の知覚現象である点が異なります。そのため、錯視は種あかしをしても、見え方が変わることはほとんどありません。つまり、いくら勉強して錯視のメカニズムの知識をたくさん得ても、目がだまされないようにすること、すなわち錯視が起こらないようにすることはできないのです。

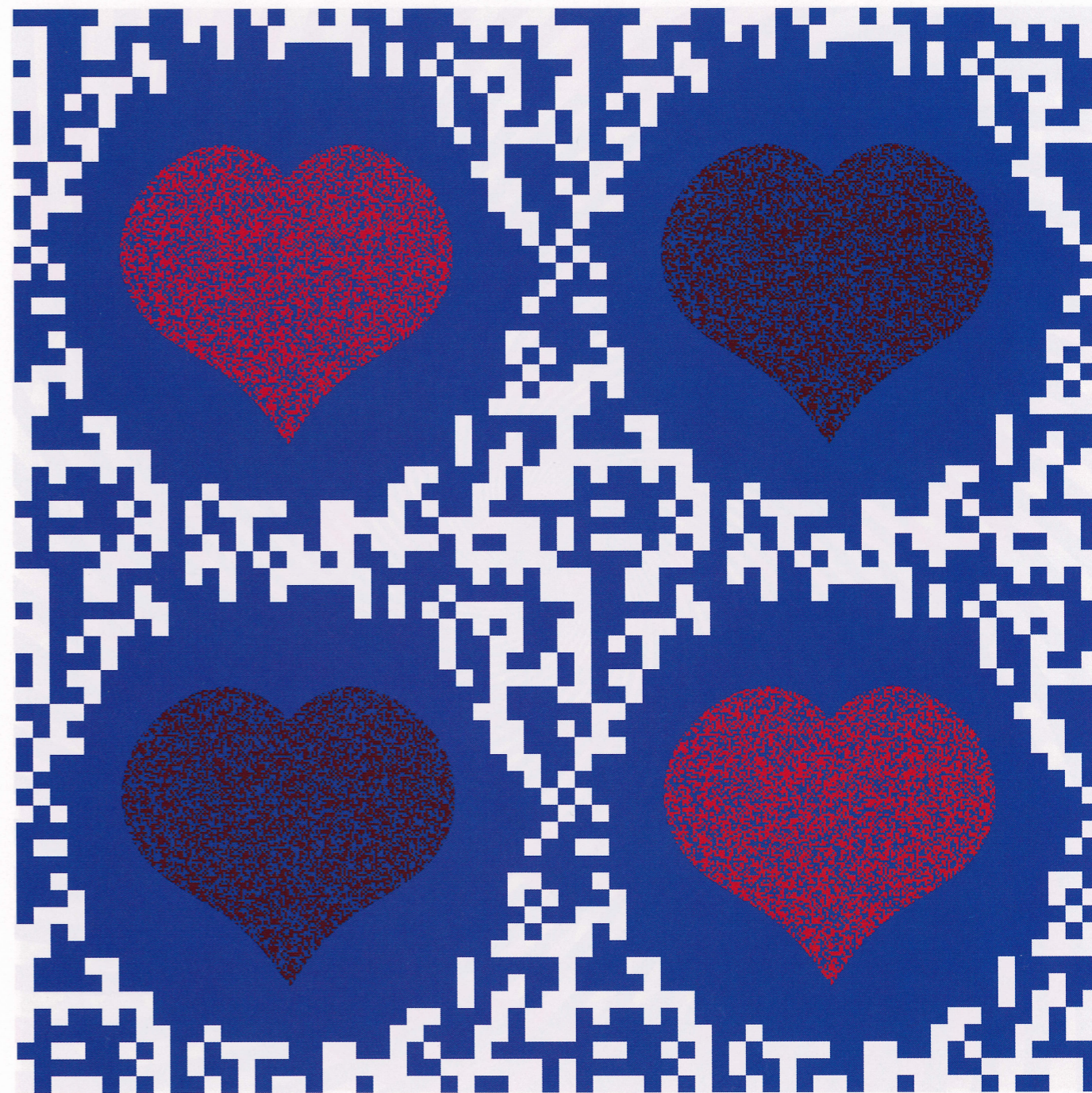


© Akiyoshi Kitaoka

### 作品「蛇の回転」

円盤が一定方向にひとりでに回転して見える錯視です。見つめているところ(中心視)では錯視が弱くなります。この錯視のメカニズムは不明です。20人に1人くらいの割合でこの錯視が起きない人がいますが、個人差ですから問題ありません。

**注意)** 錯視の図形を見て気分が悪くなった場合は直ちに、見るのを中止してください。錯視には個人差があり、人によってはその影響が強くなる場合があります。



© Akiyoshi Kitaoka

### 作品「踊るハート達」

この図を揺らすと、揺らした方向にハートが動いて見えます。この錯視の原因は、知覚の処理時間の差にあります。輝度コントラストの低いところ(赤と青のハートの部分)は高いところ(青と白の部分)よりも見えるようになるまでに時間がかかるのです。



© Akiyoshi Kitaoka

### 作品「赤の渦巻き」

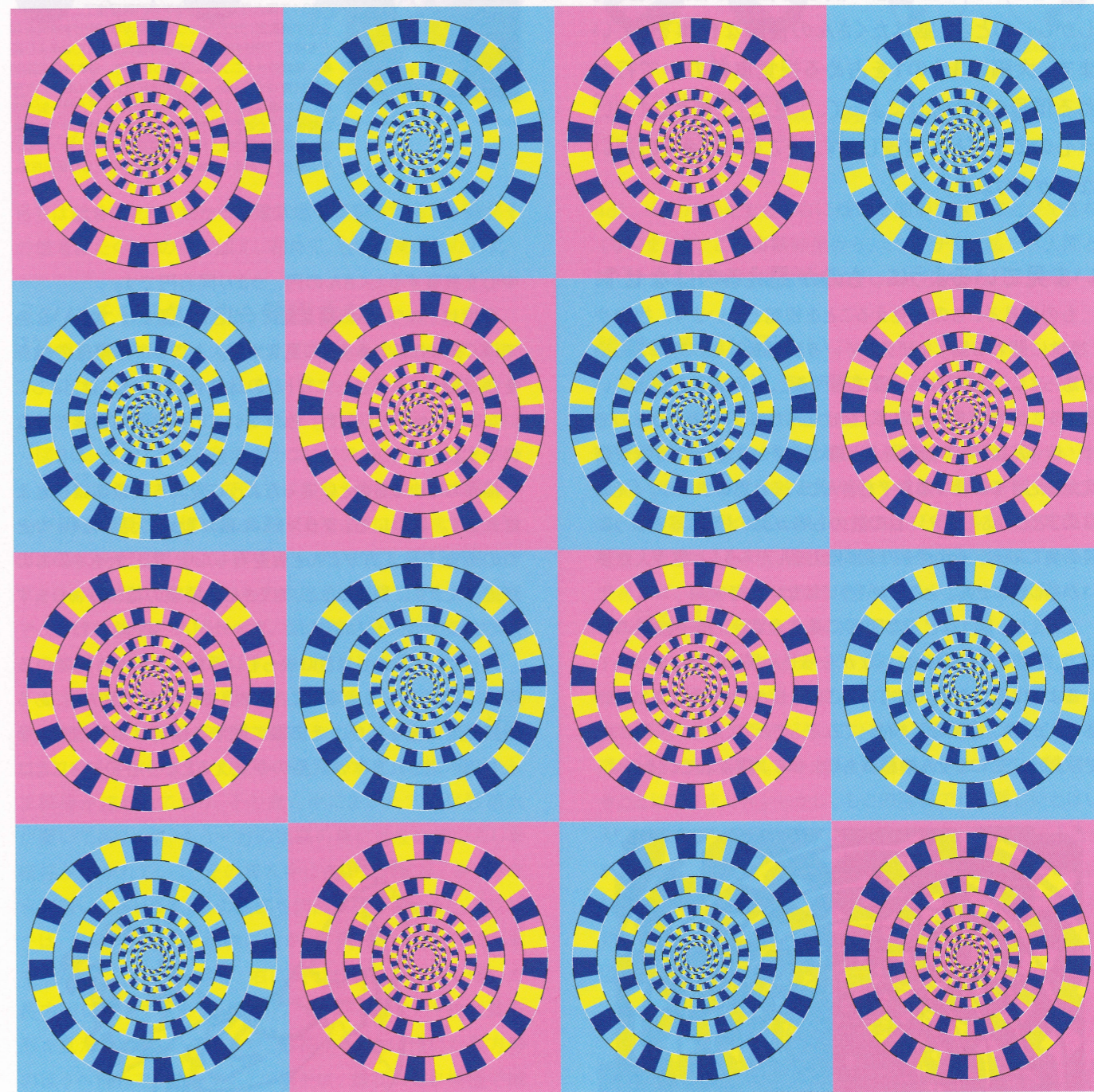
オレンジ色と明るい赤紫色の渦巻きが描かれているように見えますが、どちらも同じ赤です。ムンカー錯視という色相の錯視です。ムンカー錯視には空間周波数特性があり、きめが細かいほうが錯視量が多く、渦の中心部分に近づくほど効果が大きいことで確認できます。



文・図版  
**北岡 明佳** きたおか あきよし

立命館大学文学部人文学科心理学専攻教授

1961年高知県生まれ。1991年筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。教育学博士。2006年より現職。専門は知覚心理学。2006年、第9回ロレアル色の科学と芸術賞金賞受賞。『だまされる視覚—錯視の楽しみ方 (DOJIN選書)』(化学同人)、『もっと脳が活性化される魔法のイラスト集—トリック・アイズプレイン1・2』(カンゼン)、『錯視完全図解—脳はなぜだまされるのか?』(Newton別冊) (監修、ニュートンプレス) 等、著書多数。



© Akiyoshi Kitaoka

### 作品「渦巻きの詰め合わせ」

渦巻きの絵が16個あるように見えますが、物理的には渦巻きは描かれていません。それぞれ同心円、すなわち中心が同じで半径が異なる円が複数描かれているだけです。線が傾いて見える錯視を傾き錯視といいます。それを同心円に適用すると、渦巻き錯視となります。